年　　組　　名前

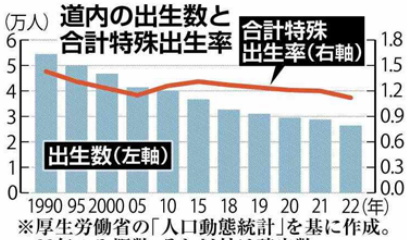
道新でワークシート

出生率1.26 過去最低

昨年人口動態 出生数最少77万人

厚生労働省は2日、2022年の人口動態統計(概数)を発表した。昨年生まれた日本人の子どもの数(出生数)は前年比4万8875人減の77万747人となり、1899年(明治32年)の統計開始以降、過去最少を更新。女性1人が生涯に生む子どもの推定人数を示す「合計特殊出生率」は1・26で過去最低となった。道内の出生数は前年より2356人少ない2万6406人で過去最少、合計特殊出生率も前年比0・08ポイント減の1・12で、少子化の加速が鮮明となった。

道内1.12 5年連続低下



※厚生労働省の「人口動態統計」を基に作成。22年のみ概数、それ以外は確定数

合計特殊出生率は前年から0・05ポイント下がり、7年連続の減少。これまで最少だった05年の出生率も1・26だが、細かな数字で比較すると今回は「1・2565」で、05年の「1・2601」をわずかに下回った。人口を維持するのに必要な出生率(2・07)だけでなく、政府が目標とする希望出生率の1・8からも大きく乖離している。

道内の合計特殊出生率は5年連続の低下で、全国では東京都(1・04)、宮城県(1・09)に続き、3番目に低かった。最も高かったのは沖縄県(1・70)だった。

厚労省は「新型コロナウイルス感染症の流行で多くの人が出産、育児に不安を感じたことなどが少なからず影響したとみられる。今年1～3月の出生数は前年比で5%程度減少しており、出生率はさらに下がる可能性がある」と分析している。

婚姻数は前年比3740組増の50万4878組で3年ぶりに増加。道内は前年比661組減の1万8665組で戦後最少となった。婚姻数の増減は出生数に直結するだけに、今後の道内の出生数をさらに押し下げる可能性がある。

一方、母親の年代別の出生数は45歳以上のみ前年より微増。第1子出産時の母親の平均年齢は6年ぶりに上昇した21年と同じ30・9歳。平均初婚年齢は夫31・1歳、妻29・7歳でともに前年より上昇し、晩婚・晩産化傾向が続いている。

死亡数は前年比12万9105人増の156万8961人で過去最多。死因は「がん」が最も多く、全体の24・6%を占め、1981年以来1位が続いている。2番目は心疾患で14・8%、次いで老衰が11・4%。道内の死亡数は同5408人多い7万4431人だった。

(根岸寛子)

2023年6月3日(土)朝刊　全道版　1ページ　(記事は再編集しています)

① 今回、出生率が過去最低となった理由として考えられることを、記事を参考に書きなさい。

② 出生率を上げるために、国はどのような政策を行うと良いか。あなたの考えを書きなさい。